

**製品名: PDPK1 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21117**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:63kD;Observed MW:58-68kD

**抗原情報**

遺伝子名	PDPK1
別名	PDPK1;PDK1;3-phosphoinositide-dependent protein kinase 1;hPDK1
遺伝子 ID	5170.0
SwissProt ID	O15530
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

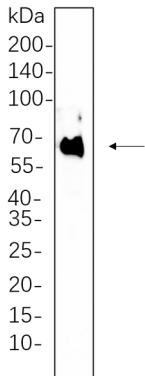
**背景**細胞局在: 膜、細胞質。触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: PKB / AKT だけでなく、PKA、PKC- $\zeta$ 、

RPS6KA1、および RPS6KB1 もリン酸化して活性化します。シグナル伝達プロセスおよび発生において一般的な役割を果たす可能性があります (類似性による)。アイソフォーム 3 は触媒的に不活性です。、PTM: チロシンおよびセリン/スレオニンがリン酸化されています。活性化ループ内の Ser-241 のリン酸化は、完全な活性化に必要です。PDK1 自体は Ser-241 を自己リン酸化して、自身を活性化することができます。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。 PDK1 サブファミリー。、類似性: PH ドメインを 1 つ含む。、類似性: タンパク質キナーゼドメインを 1 つ含む。、細胞内局在: 細胞刺激後に膜に会合し、細胞膜から移行する。チロシンリン酸化は細胞膜でのみ起こると考えられる。、サブユニット: TUSC4 と相互作用する。、組織特異性: 普遍的に発現していると考えられる。、

## 研究分野

-

## 画像データ



Hela 細胞全細胞ライセートを 10% SDS-PAGE で分離し、膜を PDK1 ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でプロットングした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。